

伝える 伝わる 個人面談



「せっかく仕事を休んだのに、うちの子の学校での様子が全然わからなかったわ」



「改善点ばかり言われてしまつてショックだわ。うちの子だって少しは良い所があるのに、先生はちゃんと見ているのかしら？」



「先生は『大丈夫、心配ありません』つて言うけれど、しっかり指導してくれているのかしら？」

個人面談は担任と保護者の信頼関係を深め、子どものより良い成長を目指すものであるのに、保護者からこんな声が聞こえてきそうな個人面談になってしまう場合もあります。いくつかの原因をあげてみます。あなたはどれに当てはまるでしょうか？

- (1) 自分の性格によるもの
- (2) 準備不足によるもの
- (3) 時間の制約によるもの
- (4) 保護者の多様化によるもの
- (5) 面談環境によるもの

保護者に伝えたいことや、聞いておきたいことはたくさんあるのに、担任の真意がどう

もうまく伝わらず、保護者にとっても担任にとっても消化不良で終わってしまう。個人面談には、こういったことが少なくありません。このようになってしまう原因と対応策を考えてみましょう。

自分の性格を理解して

子どもとは上手に話せるけれど、保護者と話すのは苦手だという人も少なくないはずです。個人面談は何度やっても緊張するものです。

保護者の前だと緊張してしまい、伝えたいことが十分に話せないという場合、ひとりひとりの子どもについて面談用の個人カルテを作成しておき、それを確認しながら話していくと伝え忘れが少なくなります。

しかし、保護者の顔を見ないで、カルテにばかり目をやったり、メモをとったりしていは、失礼にあたるので気をつけましょう。

また、反論されたり、怒らせてしまつたりすることに不安を抱いてうまく話せないという人は、担任として信念をもって話す姿勢が重要です。たとえ不愉快な思いを与えてしまつても、誠意をもって何度も話を重ねるうちに相手の心はほぐれていきます。担任が子どものことを真剣に考えているという姿勢は保護者に伝わるものですから、勇気をもっていきましよう。

新米先生

準備はしっかりと！

面談中に保護者から「うちの子は休み時間は誰と過ごしていますか?」「給食は残さず食べていますか?」「忘れ物はありますか?」等の質問をされる場合があります。

担任として子どもたちの細かい部分に目を注いでいないと明確に答えられません。すると、「しっかりと見ていない」と不信感をいだかせてしまいます。

事前の準備として「子どもの意識・悩み調査」を行っておくとよいかもしれません。意外と自分が気付いていなかったことに気付くきっかけになることでしょう。

また保護者にも、どのような内容に重点をおいて話し合いたいのかアンケートをとっておくと、事前に資料を集めることができま

短い時間も有効に！

面談時間は多くの学校で10分から15分くらいです。世間話をしているとあつと言う間に時間になってしまいます。短い時間をどう使うかが重要になってきます。また時間になったからといって唐突に切り上げてしまうのも失礼です。

まず、時間の制約があるので、単刀直入に話を切り出しましょう。話す内容は、子どもの良いところを学習面と生活面からひとつづ

つ、これからの努力点をひとつ、知らせるように入ります。話す順番としては良い点から話していくほうが受け入れやすいです。話に説得力をもたせるために、その記録や作品、資料などを準備しておくといでしょう。

また、保護者の話の途中で終わってしまつた場合は、後日、改めて時間をとるようにする配慮が大切です。

保護者のニーズに添えて

保護者の学校教育への願いは十人十色です。「学習」を重視する方もいれば、「社会性の育成」を重視する方もいます。「宿題を出して」という方もいれば「塾や習い事があるので宿題は少なくしてほしい」という方もいます。ひとりひとりの保護者に対して、気に入られる方針を出す必要はありません。担任の考えをしっかりと示して、根気よく理解を求めていくことが大切です。また自分の方針による具体的な結果を示すことも必要なことです。

また、保護者が子どもの成長で困っていることや悩んでいることに対し、耳をかたむけてうなずきながら聞くことが大切です。話の中で答えられることにはきちんと意見を述べ、即座に答えられないことは曖昧にせず、後日連絡をすることを伝えましょう。解決する努力の姿勢が重要です。

面談環境はきれいに

いざ教室に入ってみたらゴミがたたくさん、机はバラバラ、掲示物は前回教室を訪れた時とまったく同じ……などでは子どもが大切にされているとは感じません。教室環境を整えることも大切です。

面談の席の作り方では、二つの机を対面に並べるのではなく、三つの机で三角形にした



最後に・・・

保護者との信頼関係は個人面談だけで築けるものではありません。保護者と接する機会のひとつひとつを大切に、信頼関係を築きたいという願いをもって丁寧な接し方、思いはきつと伝わりませう。若い新米先生なら、笑顔と誠実さを武器に謙虚に取り組んでいきましょう。